



自立活動だより

NO. 5

文責

自立活動支援センター

令和3年6月18日発行

最近、暑い日が続き、幼稚部では水遊びが始まりました。小学部以上の児童生徒も今月末から水泳が始まります。水遊びや水泳の際には、「補聴器・人工内耳用乾燥ケース」、「綿棒」を準備ください。

さて、補聴器や人工内耳の防水性の向上は、目を見張るものがあり、特に人工内耳は、各社専用の防水カバーが発売されており、そのカバーをプロセッサーに着ければ、人工内耳を付けたままプールで泳ぐこともできるようになりました。補聴器も機種によっては、着けたままプールで泳ぐことができるものも販売されています。補聴器や人工内耳のカタログには、性能が表示されており、そこに防水保護に関して書かれています。例えば「IP68」は、最初の数字が防塵、後に書かれている数字が防水に関する数値です。防塵に関しては、0～6までの数値で表し、防水に関しては0～8までの数値で表しています。この数が大きければ大きいほど、防塵、防水加工がしっかりなされていることとなります。「IP68」の場合、「6」は完全な防塵構造で、「8」は水面下での使用が可能ということになり、温泉やプールに着けて入っても故障しない構造となっていることを示します。ただ、この防水構造は、経年劣化しますので、定期的なメンテナンスをすることが条件となります。一度、今着けている補聴器の防塵・防水構造がどのくらいなのか確認してみましょう。人工内耳の中には、防水保護構造が「IPX0」のものもあります。この機種の場合、水に対して非常に弱い構造となっていますので、汗カバーを掛け、水や汗に注意が必要となります。



耳寄りな情報です。市町村によっては、人工内耳の専用防水カバーの購入費用の助成が行われています。詳しくは、居住地の市町村へお問い合わせください。

ていねいに、ていねいとは ～温かい言葉と冷たい言葉～

言葉は、言霊といわれるように魂が宿るといわれています。何気なく子どもたちに投げかけている言葉ですが、その一言一言が子どもの心に染みていきます。「ありがとう。」「かわいい、かわいい。」「いい子だね。」「そうだね、それでいいんだよ。」などのような温かい言葉をたくさん投げかけられて育った子どもは、人の痛みのわかるやさしい子どもに育っていきます。一方、「まったく、なにやってんの。」「そんなこともできないの。」「全く、なにをやってもだめなんだから。」などの冷たい言葉、汚い言葉を投げかけられて育った子どもは、心がすさんでしまうでしょう。

私たち大人は、子どもたちの良いところに目を向ける習慣を身につけ、ほめて育てるようにしましょう。ほめる言葉は、温かい言葉です。そうすることで、思いやりのある温かい心を持った人へと成長していきます。また、自己肯定感が高まり、さまざまな事に自ら挑戦することのできる人へと育っていきます。

ただ、言葉の中には、冷たい言葉もあることも事実です。そういう言葉を避けるのではなく、機会があれば教えていくことも言葉の幅を広げる上では、大切なことです。

